

P C T

## 国際調査報告

(法 8 条、法施行規則第40、41条)  
[P C T 1 8 条、P C T 規則43、44]

出願人又は代理人 の書類記号 P028P02/PCT	今後の手続きについては、国際調査報告の送付通知様式(P C T / I S A / 2 2 0 ) 及び下記5を参照すること。	
国際出願番号 P C T / J P 0 3 / 0 9 9 7 3	国際出願日 (日.月.年) 0 6 . 0 8 . 0 3	優先日 (日.月.年) 0 9 . 0 9 . 0 2
出願人 (氏名又は名称)  科学技術振興事業団		

国際調査機関が作成したこの国際調査報告を法施行規則第41条 (P C T 1 8 条) の規定に従い出願人に送付する。  
この写しは国際事務局にも送付される。

この国際調査報告は、全部で 4 ページである。

☐ この調査報告に引用された先行技術文献の写しも添付されている。

## 1. 国際調査報告の基礎

a. 言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願がされたものに基づき国際調査を行った。

☐ この国際調査機関に提出された国際出願の翻訳文に基づき国際調査を行った。

b. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際調査を行った。

☐ この国際出願に含まれる書面による配列表

☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表

☐ 出願後に、この国際調査機関に提出された書面による配列表

☐ 出願後に、この国際調査機関に提出された磁気ディスクによる配列表

☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

2. ☐ 請求の範囲の一部の調査ができない (第 I 欄参照)。

3. ☐ 発明の単一性が欠如している (第 II 欄参照)。

4. 発明の名称は ☒ 出願人が提出したものを承認する。

☐ 次に示すように国際調査機関が作成した。

5. 要約は ☒ 出願人が提出したものを承認する。

☐ 第 III 欄に示されているように、法施行規則第47条 (P C T 規則38.2(b)) の規定により国際調査機関が作成した。出願人は、この国際調査報告の発送の日から 1 カ月以内にこの国際調査機関に意見を提出することができる。

6. 要約書とともに公表される図は、

第 \_\_\_\_\_ 図とする。 ☐ 出願人が示したとおりである。

☒ なし

☐ 出願人は図を示さなかった。

☐ 本図は発明の特徴を一層よく表している。

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>7</sup>, C07D495/04, C07H15/203, G01N33/53, G01N33/566

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>7</sup> C07D495/04, C07H15/203, G01N33/53, G01N33/566

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

CAPLUS (STN), REGISTRY (STN), CAOLD (STN), BIOSIS (STN), MEDLINE (STN), EMBASE (STN), WPI, JOIS

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
P, X	林・楠本他 ‘多岐用途型リンカーを用いた糖鎖の集合化と表面プラズモン共鳴法解析ならびにアフィニティークロマトグラフィーへの応用’ 日本化学会予稿集, 3 Mar. 2003, vol. 83rd, no. 2, p. 952 2 G2-48	1-17
P, X	林・楠本他 ‘糖鎖の集合化と固定化のための新規リンカー分子の合成’ 日本化学会講演予稿集, 10 Sep. 2002, vol. 82nd, p. 137 1 C1-12	1-17

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。

☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

\* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)

「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

02.12.03

国際調査報告の発送日

24.12.03

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号 100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

大久保元浩

印

4 C

8828

電話番号 03-3581-1101 内線 3452

C (続き) 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
P, Y	JP 2003-83969 A (科学技術振興事業団) 2003. 03. 19 (ファミリーなし)	1-17
Y	林・荒野他 ‘硫酸化オリゴ糖の集合化、ビオチン化およびその表面プラズモン共鳴への応用’ 日本化学会予稿集, 2001, vol. 79th, no. 2, p. 1042 4G304	1-17
Y	JP 7-252288 A (生化学工業株式会社) 1995. 10. 03 文献全体、p. 6-8 (ファミリーなし)	1-17
Y	FUKASE, K. et al. ‘Functional fluorescence labeling of carbohydrates and its use for preparation of neoglycoconjugates.’ J. Carbohydrate Chemistry, 1994, vol. 13, no. 5, p. 715-736 文献全体、p. 723	1-17
Y	JP 2002-80488 A (大阪大学長) 2002. 03. 19 文献全体、 特許請求の範囲 (ファミリーなし)	1-17
Y	WO 96/17613 A1 (NEORX CORP) 1996. 06. 13 文献全体、claims、 FIG. 2C & EP 794788 A1 & JP 2001-525790 A & US 5886143 A & US 5985826 A	1-17
Y	LINDHORST, T. K. et al. ‘Glycocoating of oligovalent amines: synthesis of thiourea-bridged cluster glycosides from glycosyl isothiocyanates.’ Angewandte Chemie, International Edition in English, 1996, vol. 35, no. 17, p. 1953-1956	1-17
Y	WELLS, N. J. et al. ‘Solid-phase dendrimer synthesis.’ Biopolymers, 1999, vol. 47, no. 5, p. 381-396	1-17

## &lt;調査の対象について&gt;

請求の範囲1の発明に係る、式(1)の化合物は、その端部Xの構造について「末端に芳香族アミノ基を有するとともに主鎖に炭素-窒素結合を有していてもよい炭化水素誘導鎖を、4鎖含んでなる多岐部位である構造を備えている」旨の限定しかなされていない。そして、このようなXの構造は多岐にわたることから、請求の範囲1は非常に多数の化合物を包含するものである。

しかしながら、PCT6条の意味において明細書に裏付けられ、また、PCT5条の意味において開示されているのは、クレームされた化合物のごくわずかな部分に過ぎない。

よって調査は、明細書に具体的に裏付けられ、開示されている部分、即ち、請求の範囲2, 6, 7において式(2)、式(3)、式(4)として表される化合物について主に行った。